

「浴槽あるいはプール」

2006 年 10 月 30 日

中尾寛

未だ椅子と寝台しかない家があつて、そのための浴槽あるいはプールを計画する。寝台は天蓋付き、長さは 10M－14M ほどあり、幅 1,200 の二本のレールの上に乗っていて可動である。椅子は高さ 10M 近いハイバック・チェアーで、レールの端部に設置されている。それらの詳細は初回説明されるが、計画される浴槽あるいはプールも寝台の乗るレール上に設置されることになる。

計画が浴槽あるいはプールであるならば、ではそこに入る肉体が一体何をどの様に浴び、何にどの様に浸り、潜り、沈み、溺れ、あるいは飛び込み、等々が、つまりは肉体と物質と空間の絡み合いが、計画の出発点であり目的である。上記の行為から推測される様にとりわけ液体＝光＝音響的想像力が求められる。もちろん、それは、昨今流行の「流体」的意匠デザイン、その少しも流動的、物的でもない思考・手法とは関係ない。

椅子と寝台は 4 組あり、それぞれ 5 人一組のグループに割り当てられる。それらは通常の設計における敷地条件などと同様、純粋に与条件として考えられるべきだが、例えば四季だとか四元素だとか四体液説などが設定するような特性の分類として拡大解釈することもできる。グループは、クインテットの様に空間を響かせ合う関係。とすれば、この課題は個人製作でもありグループ製作でもあり全体製作でもある。宝塚歌劇団。

提出物：S:1/20 モデル、S:1/20 平立断面図。